

令和2年度 自己評価書

真庭市立中和保育園

1. 中和保育園の教育保育目標

- 豊かな心を持ちいきいきと遊ぶ子ども
 - ・友達と仲良く遊べる子ども
 - ・ルールを守って生活できる子ども
 - ・挨拶、返事のできる子ども

2. 本年度の重点目標

- 乳幼児期から就学前の幼児の成長過程の中で、お互いが育ち合い意欲を持って生活できる子どもの基礎づくりに必要な人的及び物的環境を整える。
- 地域に根ざした保育園となるよう、保護者及び地域との連携を図る。
- 職員の資質向上と保育環境の整備を行う。

3. 園評価の個別評価

評価指標	考 察	園総合評価
教育課程・指導計画	子どもの姿や育ちを捉え、育てたい力を意識し指導計画を立てている。記録から振り返り、必要な援助・支援を行っている。	3
行事	季節を感じる行事を大切にして計画し、子ども達に合わせた内容にしている。	3
組織・運営	職務分担表を基に仕事内容を明確にしている。職員が協力して園の運営に関わっている。	3
学級経営	担任は、子ども一人一人の発達を理解し、環境を整えながら保育を進めた。	3
特別支援教育	手立を必要とする子どもには職員間で共通理解をするようにした。	3
安全管理・保健指導	毎月安全点検を実施、不具合があれば早急に修繕を依頼し安全に努めた。	3
研修（資質向上）	園外研修には積極的な参加ができたが、園内研修が計画的に進められなかった。	2
情報提供・保護者・地域との連携	各種便りや行事の様子を発信する。また、地域の方との関わりを大切にしている。	3
小学校との接続・連携	小学校との接続を意識し、アプローチカリキュラムを作成し、交流も相談しながら行えた。	3
子育て支援	保護者が必要としたときに、相談できる関係作りに努めた。	3
食育の推進（給食）	園でとれた食材を献立に取り入れたり、クッキングを通して食に関心が持てた。	3
食事の提供（調理）	安心・安全な給食提供に心がけ徹底した調理に努めた。	4

5. 本年度の重点目標及び総合的な評価結果の考察等

- ・異年齢児のクラス編成のため、個々の成長に配慮して活動を進める。また、クラスを合同にして活動するなど保育士の配慮が随所に見られた。
- ・今年度は、コロナ禍のため園内外の活動の多くが中止や延期となったが、小規模の園ならではの強みをいかし、衛生面には十分配慮し工夫しながら行事を進める努力をした。
- ・園外の研修へは積極的に参加し、新しい情報や他園の保育環境を吸収し保育にいかすようにした。職員の資質向上となるような園内研修の持ち方の工夫をする。
- ・小学校とは年度当初に、園訪問で就学児の情報交換を行う。後半には小学校と話し合い保育園にて雪遊びの交流会持ち接続へと繋げる。
- ・身近なことから職場の働き方を考え、連絡帳の活用方法の簡素化を提案する。

6. 評価結果を受けての具体的改善方策等

- ・保育のねらい・内容を明確にし、育てほしい力・育てたい力を意識して活動に取り入れ、園と家庭との連携を大切に園づくりをしていく。
- ・地域との交流や園の行事においては、コロナ禍での対応を明確にし職員での共通理解に努める。
- ・園内研修が充実するよう園全体で話し合い、研修の場で学んだことが反映できるよう職員で共通理解する。
- ・小学校とは、連絡を密にとりながら年間計画を立てアプローチカリキュラムを提示して、行き来ができるようにする。
- ・職員の負担軽減として、ホワイトボードを活用しクラス全体の活動を伝えていく。

園評価基準

評価	基準	
4	80%以上の達成度	十分達成されている
3	60%以上80%未満の達成度	概ね達成されている
2	40%以上60%未満の達成度	取り組まれているが、成果が十分でない
1	40%未満の達成度	取り組みが不十分である